

平成 22年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A) 特定共同研究(B) 特定共同研究(C) 一般共同研究
 地震・火山噴火予知研究 施設・実験装置・観測機器等の利用
 データ・資料等の利用 研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2010 - A-1 (1406)

3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文: 地震発生予測のための地震活動評価手法の基盤構築

英文: _____

4. 研究代表者所属・氏名 東京大学地震研究所・鶴岡 弘(地震研究所担当教員名) 東京大学地震研究所・鶴岡 弘

5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
岡田正実	気象研究所	参加	平成22年1月13日	1	有

6. 研究内容 (コンマ区切りで3つ以上のキーワードおよび400字程度の成果概要を記入)

キーワード:

地震発生に至る地殻の物理的素過程が明らかになったとしても、来るべき地震の時期、場所や大きさが決定論的に予測できるようになることは考えづらい。これは、地震を含む破壊現象には非線形的な要素が少なからず含まれていると考えられるからである。地震発生予測の進展のためには、統計モデルや物理モデルに基づく地震活動予測アルゴリズムを時空間的に高分解能かつ高精度化する必要があり、それらのアルゴリズムの妥当性を評価・検証する仕組みの構築もなされる必要がある。これらを効率的に実施していくための地震データの品質管理や地震活動予測アルゴリズムを備えたソフトウェアの有機的な結合を実施し、地震活動に基づく地震発生予測研究の基盤構築を行う。

今年度においては、地震活動予測アルゴリズムを評価・検証するソフトウェアを3台のWSに追加展開を行い、3カ月予測、1日予測の結果を効率的に取得できるようにした。

7. 研究実績報告 (公表された成果のリスト*¹または2000~3000字の報告書)(*¹論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと)

K. Z. Nanjo, T. Ishibe, H. Tsuruoka, D. Schorlemmer, Y. Ishigaki, and N. Hirata, Analysis of completeness magnitude and seismic network coverage for Japan, Bull. Seism. Soc. Am., 100, 6, 3261-3268, 2010. ポイント 3

Yokoi S., K. Z. Nanjo, H. Tsuruoka, N. Hirata, D. Schorlemmer, F. Euchner, CSEP-Japan: Report on prospective evaluation test of the 3-month testing class, 2010 SCEC Annual Meeting , Palm Springs (USA), 2010 年 9 月 11 日-15 日, 2010. ポイント 2

Yokoi S., K. Z. Nanjo, H. Tsuruoka, N. Hirata, Application of an analytical testing method to improving the RI forecasting model, 日本地震学会 2010 年秋季大会, 広島市, 2010 年 10 月 27 日-29 日, 2010. ポイント 2

Yokoi S., K. Z. Nanjo, H. Tsuruoka, N. Hirata, Application of an analytical testing method to improving the RI forecasting model, 2010 AGU Fall Meeting, San Francisco (USA), 2010 年 12 月 13 日-17 日, 2010. ポイント 2